日刊 産業新聞

2015年（平成27年） 4月17日 金曜日

大和合金 三芳工場が一部稼働
製造、検査工程を効率化

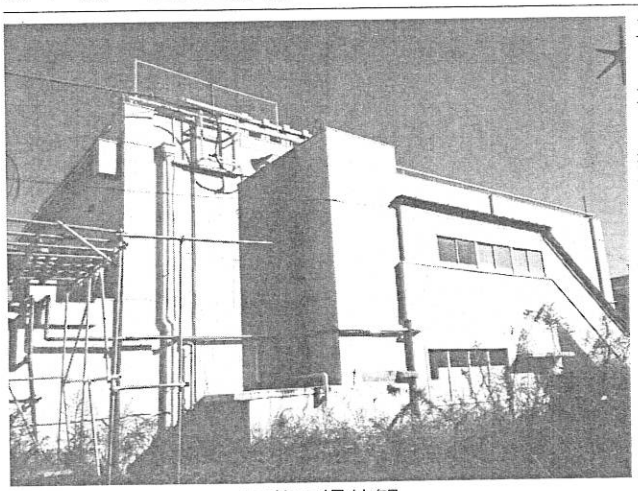
特殊銅合金メーカーの大和合金（本社＝東京都板橋区、萩野源次郎社長）はこのほど、昨年取得した三芳工場（埼玉県入間郡三芳町）に本社工場から一部設備を移設し、操業を開始した。本年中に本社の加工設備の全面移設を完了する予定。グループ会社の三芳合金工業から徒歩1分あまりと近く、素材の製造から加工、検査までの流れを効率化できる。

同社は昨年12月、化学メーカーが保有していた工場を数億円で買収。敷地面積は約5600平方㍍で、2階建ての工場建屋のほかに2棟の倉庫を有する。延べ床面積は約2600平方㍍で、本社工場の3倍の広さがある。

本社工場は、三芳合金工業で製造した銅合金製品の切断・旋盤加工などを行っている。年内をめどに本社工場の旋盤や自動切断機、バンドソーなどを全て三芳工場へ移設。すでに移設を終えた旋盤2基で今月より順次稼働を開始している。設備移設に合わせて内装工事も行い、事務所や会議室、応接室も作る。

三芳合金は素材の製造だけでなく、加工や出荷前の品質検査なども行う。これまでは三芳から大和に送って加工し、再び三芳に戻して検査する必要があったが、三芳工場の稼働により出荷までの時間やコストが改善する。

また、本社工場は設備や在庫を増やす余地がなくなっていたが、三芳工場の取得により今後さらなる成長事業への投資がしやすくなる。萩野社長は「両社の物理的な距離が近くなることで、これまで以上に連携を取りやすくなる」と、グループの最適な生産管理の改善などにも寄与すると期待する。



三芳工場外観